

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990800011		
法人名	ルミナス株式会社		
事業所名	グループホームひかり昭和西条		
所在地	山梨県中巨摩郡昭和町西条2092		
自己評価作成日	平成25年11月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成27年11月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月必ず一回以上外出することが会社として決められているが、それ以外にも個別に外出を行ったりし、気分転換や四季を感じていただけるようにしています。
また、納涼会やクリスマス会にはご家族の方々や近隣の方にも参加頂き、交流を深めています。現在は昭和町の認知症サポーターの方にも来ていただいたりと地域密着型のホームです。中庭には菜園があり、栽培や収穫をお手伝いしていただきながら、売り物が摂れた際には玄関先の自動販売機で販売したりもしています。もちろん摂れた野菜は食事にも出され、四季毎に美味しい野菜が召し上がれます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中央自動車道に近い新興住宅地の中に位置し、静かで落ち着いた環境の事業所である。敷地内には菜園があり、四季折々の野菜が栽培され、事業所で利用する外、住民に販売する事もある。地域との交流を深め、事業所への理解と協力がより深まるよう、今年度はコミュニティカフェを計画して先般第1回目のカフェを開いた。今後も月1回程度実施する予定である。また、事業所では看取り支援は行わない方針であったが、最期迄を、と希望される家族もあり、終末期に予想される事態について現在マニュアルを作成中である。法人本部からの研修も利用者や家族に寄り添った研修内容で、職員は常にスキルアップしつつ支援に生かし、利用者は温かな職員に見守られ、穏やかな日々を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

調査シート(自己評価および外部評価結果)

事業所名(グループホームひかり 昭和西条)

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西フロア)	ユニット名(東フロア)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念として「ひとに光を」を掲げ、利用者・ご家族・スタッフの3者にとって光ある環境を提供できるよう心がけ、日々のケアをしています。	運営理念として「ひとに光を」を掲げ、利用者・ご家族・スタッフの3者にとって光ある環境を提供できるよう心がけ、日々のケアをしています。	理念を貼り絵で作成し、手作りの額に入れ、玄関正面のボックス上に掲げてある。「ひとに光を」は、意味が難解なため、職員には入職時や毎月のカンファレンス時に管理者が意味を具体的に説明し、職員のスキルが向上するよう指導、共有して現場の支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昭和町認知症サポーターの方々を受け入れることにより、より地域とつながりが深まっています。また外出や散歩を積極的に行い、こちらからあいさつをしています。	近くの小学校から運動会の招待状が届き見学の参加をしています。また散歩に行く際は職員がゴミ袋を持ち利用者様とゴミ拾いをしています。	地域の小学校の運動会を見学に行ったり、事業所で中学生が職場体験をしている。認知症サポーターとの交流、散歩時に地域の人々と挨拶や会話をし、職員はビニール袋を持参してごみ拾いをしている。また、事業所の行事に地域住民を招待するなど地域との交流を活発に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	専門学生の実習先や、認知症サポーターの方の実習先としての受け入れをしている。また小学校の運動会の観覧を通じグループホームでの生活等を感じていただけるよう努めています。	中学生の職場体験や専門学生の実習先、認知症サポーターの方の実習先としての受け入れをしています。また小学校の運動会の観覧を通じグループホームでの生活等を感じていただけるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催しており、ご意見をいただける機会が増えたことにより、サービスがよりニーズに応えた対応ができています。	2ヶ月に一回開催しており、行事の内容や気づいたことなど意見をいただいています。	事業所の現状や行事等を報告して参加者からの意見を聞いている。参加家族より、避難訓練、避難場所について意見、要望が出された。今年度より、元消防団の経験がある区長も会議に出席する事になり、後日事業所でAEDの講習と指導をしてください。	運営推進会議では、事業所の抱える利用者の減少などの問題を率直に報告、相談して解決策へのヒントや指導を受け、会議をより有効に活用する。また、会議録は利用者、全家族、職員、地域に公表する事が事業所の安定運営に繋がると思われる。今後は期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時、町の担当者へのホーム運営状況や試み、新規利用者のアセスメント状況等について報告しています。また、町主催の地域密着型運営会議に出席し、現状報告や課題をお話させていただいています。	随時、町の担当者へのホーム運営状況や試み、新規利用者のアセスメント状況等について報告しています。また、町主催の地域密着型運営会議に出席し、現状報告や課題をお話させていただいています。	事業所の現状や課題を報告して運営推進会議録を届けている。町主催の認知症サポーター講習、地域包括支援センター主催の地域密着型運営会議に出席するなど積極的に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行っているカンファレンスにおいて事例を用いた研修を行っています。	毎月行っているカンファレンスにおいて事例を用いた研修を行っています。	毎月のカンファレンスで事例を通して拘束についての話し合いを行っている。スピーチロックは気になった言葉が聞かれた折は、職員同志で注意しあったりカンファレンスで話し合っている。玄関のカギは夜間のみ施錠。外に出たがる利用者には職員が一緒に同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行っているカンファレンスにおいて事例を用いた研修を行い事業所内で虐待が見過ごされないよう努めています。	毎月行っているカンファレンスにおいて事例を用いた研修を行い事業所内での虐待が見過ごされないよう努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて学ぶ機会を持ち、個々の必要性に対応できるように支援しています。	個々の必要性に対応・支援できるように、社内研修はスカイプを用いて学ぶ機会を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時、契約書・重要事項説明書のないよう説明を行い、不明な点や疑問点に回答し、ご理解いただいているから入居されています。	利用契約時、契約書・重要事項説明書のないよう説明を行い、不明な点や疑問点に回答し、ご理解いただいているから入居されています。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西フロア)	ユニット名(東フロア)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等に近況報告を出し、来訪時に細かくお話しさせていただいています。また運営推進会議を2ヶ月に1度開催することにより、迅速に意見を聞くことができ、運営に対応可能な場合は即対応し、不可能な場合も適切に説明しています。	家族に近況報告を出し、来訪時に細かくお話しさせていただいています。また運営推進会議を2ヶ月に1度開催することにより、迅速に意見を聞くことができ、運営に対応可能な場合は即対応し、不可能な場合も適切に説明しています。	法人本部より年1回家族アンケートが実施され家族の意見を聞いている。家族の面会時、細かな近況報告をして、家族からの意見や要望を聞いている。必要な事、可能なことは対応している。運営推進会議時に避難訓練について家族より、意見、要望があり対応した	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に日常的にスタッフから意見・提案をこちらから聞いていくことと、3ヶ月に1度の面談を設けて意見をまとめ月に一度の本社会議の際に提出しています。	個別に日常的にスタッフから意見・提案をこちらから聞いていくことと、3ヶ月に1度の面談を設けています。	フロア長に話をして花を飾るなど、身近な意見や提案は日常的に出している。月1回のカンファレンス時に意見や提案を出したり、3か月に1回の面談時にも意見を出せる。内容により本部に上げ、予算を付けてもらう時もあり、コミュニティカフェに予算が付けられ実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を設けており、管理者・スタッフが日々向上心を持ちケアに取り組める環境になっています。また新卒採用時の制度も新しく設けたことにより、新しく入ったスタッフにもやりがいを持ってもらえるようにしている	キャリアアップ制度を設けており、管理者・スタッフが日々向上心を持ちケアに取り組める環境になっています。また新卒採用時の制度も新しく設けたことにより、新しく入ったスタッフにもやりがいを持ってもらえるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社で行われる年間社内研修計画があり、新人から管理者まで計画に沿って研修が行われており参加しています。全員が参加できるようにシフトを組んでいます。	本社で行われる年間社内研修計画があり、新人から管理者まで計画に沿って研修が行われており参加しています。全員が参加できるようにシフトを組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本社で行われる社内研修で別ホームとの交流や会議をする機会があります。また訪問看護を通じての情報交換をしています。	本社で行われる社内研修で別ホームとの交流や会議をする機会があります。また訪問看護を通じての情報交換をしています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談受付の際よりご本人との面会を行い、人生史や今後の要望などを可能な限り伺っています。また安心して生活をできるように事前にホームを見学していただいています。	相談受付の際よりご本人との面会を行い、人生史や今後の要望などを可能な限り伺っています。また安心して生活をできるように事前にホームを見学していただいています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談受付の際に、ご家族等にもお話を伺い今後のケアに役立てています。	相談受付の際に、ご家族等にもお話を伺い今後のケアに役立てています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付の際は、担当CMやMSWからの情報も集めた上で、グループホームでのケアが必要であるか見極め、必要に応じて他のサービスの紹介を行います。	相談受付の際は、担当CMやMSWからの情報も集めた上で、グループホームでのケアが必要であるか見極め、必要に応じて他のサービスの紹介を行います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを大切に一緒に生活する中で利用者の方々の心情の変化を読み取り対応するようになっています。	コミュニケーションを大切に一緒に生活する中で利用者の方々の心情の変化を読み取り対応するようになっています。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西フロア)	ユニット名(東フロア)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族等の持っている悩み、不安を共有し利用者と一緒に支えていく関係を築いています。また、ケアプランにおいて、家族の面会を願ひし、より一体感のあるケアをしています。	ご家族の持っている悩み、不安を共有し利用者と一緒に支えていく関係を築いています。また、ケアプランにおいて、家族の面会を願ひし、より一体感のあるケアをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族等、ご友人などの方々に面会にお越しいただき、外出や外食の機会を設けています。特に親しいご友人などは行事にお誘いするなど工夫しています。	ご家族等、ご友人などの方々に電話で話をされたり、面会にお越しいただき、外出や外食の機会を設けています。特に親しいご友人などは行事にお誘いするなど工夫しています。	昔の友人の面会を支援したり、贈り物の礼状書きや電話の取り次ぎを支援している。馴染みの美容院に行く利用者や、家族と共に外食や墓参りなどに行く利用者もいる。親しい友人を事業所の行事に誘う等、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の一人一人の性格を把握し、職員が中間役となり、利用者同士で楽しく話したり、時には喧嘩したり、支えあい生活出来るよう支援しています。	利用者の一人一人の性格を把握し、職員が中間役となり、利用者同士で楽しく話したり、時には喧嘩したり、支えあい生活出来るよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られた後も、ご家族や担当者の方からの相談は都度応じるようにしています。	他の施設へ移られた後も、ご家族や担当者の方からの相談は都度応じるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から利用者のしたいことや、昔話などを聞き、良く関わることによって、利用者の思いを汲み取るように努めています。	普段から利用者のしたいことや、昔話などを聞き、良く関わることによって、利用者の思いを汲み取るように努めています。毎月行っている外食や手作りランチは利用者様のご意見を聞き実施しています。	常に利用者の想いを聞くよう努めている。意思の表出困難な利用者は表情や動きから想いを汲み取っている。現在意思表出困難な利用者が1名いる。現在それぞれの利用者にノート(自分史)を作り、家族にも面会時に書いてもらう自分ノートを作成中である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族だけでなく、アセスメントや今までのサービス提供過程とその経緯を担当マネージャーに伺っています。	ご家族だけでなく、アセスメントや今までのサービス提供過程とその経緯を担当マネージャーに伺っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは、利用者の状態変化や様子を申し送り時・日常生活時に情報交換し理解ある仲介者となるよう心がけています。	スタッフは、利用者の状態変化や様子を申し送り時・日常生活時に情報交換し理解ある仲介者となるよう心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの際にアセスメントやモニタリングを実施し、家族とも話し合い、ケアの内容を決定させていただいています。	カンファレンスの際にアセスメントやモニタリングを実施し、家族とも話し合い、ケアの内容を決定させていただいています。	入居時に利用者、家族より意見を聞き、初期の暫定プランとし、1ヶ月後にモニタリング、カンファレンスを経て本プランとしている。3か月に1回見直しをする。状態変化時はその都度、職員・医療関係者の意見を聞きながら、プランの修正をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有ノートを作ることによって、気づきを共有しています。またそれをカンファレンス等の際話し合う体制が整っています。	情報共有ノートを作ることによって、気づきを共有しています。またそれをカンファレンス等の際話し合う体制が整っています。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西フロア)	ユニット名(東フロア)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護サービスにより健康状態の把握に努め、利用者・家族のニーズに対応できるよう訪問マッサージ・訪問歯科の導入をしています。また会社の機関に属さない独立したQC室を設置し、顧客満足度調査などを行っています。	訪問看護サービスにより健康状態の把握に努め、利用者・家族のニーズに対応できるよう訪問マッサージ・訪問歯科の導入をしています。また会社の機関に属さない独立したQC室を設置し、顧客満足度調査などを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや介護保険係、他事業所のケアマネージャー達と協力しながら、地域資源の活用について話し合いをしています。	地域包括支援センターや介護保険係、他事業所のケアマネージャー達と協力しながら、地域資源の活用について話し合いをしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受信の際は、利用者・ご家族の希望のある医療機関にかかっていたいただいています。希望で月2回、甲州リハビリテーションの医師に往診していただいています。	受信の際は、利用者・ご家族の希望のある医療機関にかかっていたいただいています。希望で月2回、甲州リハビリテーションの医師に往診していただいています。	現在、以前からの掛かりつけ医受診の利用者が2名、他は事業所の嘱託医となっている。かかりつけ医受診時は利用者の情報を家族に口頭で伝え、受診後に結果の報告を受け、職員が共有している。嘱託医は月2回往診に来て、利用者の健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	甲州訪問看護ステーションより看護しが毎週金曜日に健康チェック等をしに来ていただいています。日々のケアでの気づきや対応を相談しています。	甲州訪問看護ステーションより看護しが毎週金曜日に健康チェック等をしに来ていただいています。日々のケアでの気づきや対応を相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各医療機関の方々と入退院の際には、必ず情報交換の機会を設けていただいています。	各医療機関の方々と入退院の際には、必ず情報交換の機会を設けていただいています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や担当医の方との積極的な話し合いの場を設け、重度化や終末期への対応方針について協議を行っています。	家族や担当医の方との積極的な話し合いの場を設け、重度化や終末期への対応方針について協議を行っています。	事業所では、看取りほしない、を基本としている。食事が摂れなくなった、水分摂取が出来ないなど状態が重度になった折、事業所で何処まで支援出来るかを医師を交えて家族と話し合いをしており、特別養護老人ホームを申請する時もある。起こり得るリスクも予想される中、最後迄ここで看取ってほしい、の希望があり、今までに3名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時の研修や、張り紙等による徹底をし、急変や自己発生時の対応をカンファレンスなどで再確認して、常に学んでいます。	入職時の研修や、張り紙等による徹底をし、急変や自己発生時の対応をカンファレンスなどで再確認して、常に学んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にて、参加者の方々に協力をお願いするとともに、年に2回の消防・避難訓練をし、毎回違う状況を作り、避難経路を複数確保し、職員にもカンファレンスなどで再確認しています。	運営推進会議にて、参加者の方々に協力をお願いするとともに、年に2回の消防・避難訓練をし、毎回違う状況を作り、避難経路を複数確保し、職員にもカンファレンスなどで再確認しています。	年2回、火災、避難訓練を行っている。火事は出火場所を毎回変えて避難経路を確認している。夜間想定もやっているが、夜勤する職員全員迄はまだ訓練を体験していない。地域住民に見守りなどの協力要請はしていない。	災害は何時、発生するか判らない。訓練の回数を増やす事や、夜勤者全員が訓練を体験する事で万が一の折の初期行動や判断が生きてくると思われる。又、住民に運営推進会議を通し避難時の見守り協力の依頼をするのも有効と思われる。今後を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフにはカンファレンスにおいて、日々のケアや一人一人に合った声掛けの統一・理解をしていただいています。	スタッフにはカンファレンスにおいて、日々のケアや一人一人に合った声掛けの統一・理解をしていただいています。	人生の先輩として敬う心で利用者に向かい合っている。名前の呼び方は時々の状況で氏や名に「さん」をつけて呼んでいる。入浴時や排泄時のプライバシー保護に注意している。守秘義務は理解しており書類は適正に管理されている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西フロア)	ユニット名(東フロア)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中からコミュニケーション作り、信頼関係作りを努め、本人の思い、希望を表出できるよう努めています。	月に数回利用者様からご意見を聞き食事作りやおやつ作りをしています。また午後のお茶の際は、飲み物をご利用者様に数種類の中から選んでいただいで提供しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人に声掛けをし、その日の様子により比較的柔軟な対応を行っています。	その日のご利用者様の様子で比較的柔軟な対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や起床時の整容等は、出来る限りご本人に行っていたいただけるよう支援しています。	衣類の選択や起床時の整容等は、出来る限りご本人に行っていたいただけるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度両フロア合同で昼食を作ったり、その際に好みのメニューなどにしています。テーブル拭きや片付けなどできる利用者には声を掛けてお手伝いしていただいています。	月に一度両フロア合同で昼食を作ったり、その際に好みのメニューなどにしています。テーブル拭きや片付けなどできる利用者には声を掛けてお手伝いしていただいています。	食材は業者から届けられ、温める、炒めるなど副食の最後の作業を事業所で行っている。月に1度利用者の好みのメニューで食事を作り、それぞれの利用者が自分の出来る事で作業に参加している。職員も同じテーブルで利用者と会話しながら一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・食事形態を一人一人に合わせ提供しています。食事量・水分の摂取量は介護記録等に都度記録し、全スタッフが把握できるようにしています。	食事量・食事形態を一人一人に合わせ提供しています。食事量・水分の摂取量は介護記録等に都度記録し、全スタッフが把握できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け誘導や介助により口腔ケアをしています。	毎食後、声掛け誘導や介助により口腔ケアをしています。また、希望で訪問歯科の際に口腔ケアをしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄に心がけ、個人のチェック表を記入して、本人の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っています。	トイレでの排泄に心がけ、個人のチェック表を記入して、本人の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っています。	排泄チェック表を使い、出来る限りトイレでの排泄が継続出来るよう支援している。布パンツで排泄が自立している利用者が1名、紙オムツの利用者が両ユニット併せて2名いる。トイレ排泄が排泄機能の維持、改善に繋がるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前や、お茶の時間などに牛乳を提供したり、体操・散歩を行い便秘予防に努めています。	朝食前や、お茶の時間などに牛乳を提供したり、体操・散歩を行い便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望の方は毎日入浴できる体制が整っています。また入浴の際は必ず事前に声掛けを行い、入るか確認しています。	希望の方は毎日入浴できる体制が整っています。また入浴の際は必ず事前に声掛けを行い、入るか確認しています。	午前中 毎日入浴できるようになっている。入浴中会話したり歌を唄ったりして楽しく入浴できるよう支援している。拒否する利用者は声掛けを工夫したり、朝、夕の更衣時に清拭や下着交換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西フロア)	ユニット名(東フロア)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の生活習慣に合わせ、就寝時間や環境作りを支援しています。またシーツなどの替えを可能な限り複数用意していただき、なるべくいつでも休息できるよう努めています。	利用者一人一人の生活習慣に合わせ、就寝時間や環境作りを支援しています。またシーツなどの替えを可能な限り複数用意していただき、なるべくいつでも休息できるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や副作用等スタッフに徹底させ、二人のスタッフでチェックすることによって、より薬についてお互い学べるような体制を整えています。	服薬内容や副作用等スタッフに徹底させ、二人のスタッフでチェックすることによって、より薬についてお互い学べるような体制を整えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月1回以上の外出・外食は利用者から希望を伺い実現できるように努めています。また日々の中でコミュニケーションを取っていき、ホーム内で可能なことであれば出来る限り用意して行っている。	月1回以上の外出・外食は利用者から希望を伺い実現できるように努めています。また日々の中でコミュニケーションを取っていき、ホーム内で可能なことであれば出来る限り用意して行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	D勤務という形態があり、日々のケア以外にも対応出来るようになってきているため可能な限り戸外への外出などの支援に努めている。また利用者の話を日常的に聞いていき、普段では行けないような場所の場合は、家族に連絡を取り出かけられるようにしている。	D勤務という形態があり、日々のケア以外にも対応出来るようになってきているため可能な限り戸外への外出などの支援に努めている。また利用者の話を日常的に聞いていき、普段では行けないような場所の場合は、家族に連絡を取り出かけられるようにしている。	日々の散歩や季節に合わせた花見、行事外出など外に出る機会が多い。家族と共に掛ける利用者も居る。広いウッドデッキは日光浴やバーベキューにも利用でき、利用者の和みの場となっている。敷地内の菜園では季節の野菜が育てられ、利用者も職員と一緒に収穫を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本ホームでの金銭管理を行っています。ご本人の希望があれば一緒に買い物に行き、お財布などを自分で持っていていただき、使っていただくように支援している。	基本ホームでの金銭管理を行っています。ご本人の希望があれば一緒に買い物に行き、お財布などを自分で持っていていただき、使っていただくように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、利用者のご家族等いつでも連絡が取れる体制を整えています。また手紙と一緒に書くなどの支援をしています。	電話は、利用者のご家族等いつでも連絡が取れる体制を整えています。また手紙と一緒に書くなどの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は整頓され、歩行時に過度な障害物がないように配置しています。また菜園にて四季に合わせた野菜を作っています。	共有空間は整頓され、歩行時に過度な障害物がないように配置しています。また菜園にて四季に合わせた野菜を作っています。	事業所内は玄関からLの字に別れ2つのユニットに続いている。食堂兼居間も広々として食事用のテーブルの他、ゆったりとしたソファやテレビが置かれている。廊下も広く所々にソファがあり休める。キッチンも広く、トイレ、浴室も使い易い。所々に絵や花が飾られ華やかな装飾が無く落ち着いた過ごせる場になっている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは適度なスペースがあり、一人になれたり共に過ごすことが可能な配置になっています。	リビングでは適度なスペースがあり、一人になれたり共に過ごすことが可能な配置になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具は収納棚のみで、その他の家財道具はお持込いただいております。写真なども飾られたり、もともと住んでいた環境をそのまま持ってきたとしても差し支えない空間を提供しています。	備え付けの家具は収納棚のみで、その他の家財道具はお持込いただいております。写真なども飾られたり、もともと住んでいた環境をそのまま持ってきたとしても差し支えない空間を提供しています。	収納戸棚、作り付けハンガー掛け、カーテン、エアコン以外はそれぞれの利用者が必要な物、お気に入りの品々を持参している。ペットも持参したり、リースを利用している利用者もいる。持参品が少なくさっぱりとした居室もあり、自分らしく居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりも設置されており、利用者が自然に活用できるように整備されています。またトイレの位置もわかりやすいようにサインを設けています。	廊下・トイレ・浴室には手すりが設置されており、利用者が自然に活用できるように整備されています。またトイレの位置もわかりやすいようにサインを設けています。		